

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	みよし市児童育成計画審議会（令和元年度第1回）		
開催日時	令和元年7月18日（木） 午前10時から11時30分まで		
開催場所	市役所6階 601・602会議室		
出席者	(会長) 小沢 志江子 (委員) 梅川小夜子、馬淵妙子、加藤志穂、野々山和輝、深谷 那奈代、谷澤智子、福島望実、近藤浩美、正亀智子、松浦 真弓 (事務局) 林子育て健康部長、加藤子育て健康部次長、 子育て支援課 本松主幹、木戸主幹、岩下副主幹、池野副主幹		
次回開催予定日	令和元年10月中旬		
問合せ先	子育て支援課（担当者）岩下、池野 電話番号 0561-32-8034 ファックス 0561-34-4379 メールアドレス kosodate@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	議事録全文	要約した理由	—
審議経過	以下の通り		
【発言者】 加藤次長	【内容】 定刻になりましたので、只今から令和元年度第1回みよし市児童育成計画審議会を開催いたします。 会議に先立ちまして礼の交換を行います。恐れ入りますが、皆様ご起立をお願いします。 「互いに礼」 ご着席ください。 始めに、充て職の交代等で新たに児童育成審議会委員にご就任いただき皆様にご委嘱状を交付させていただきましたが、お席に用意させていただきましたのでご確認ください。 続きまして、市長より審議会に対しまして諮問いたします。		
市長	みよし市児童育成計画審議会 会長 小沢志江子様 みよし市児童育成計画審議会設置要綱第2条の規定により、みよし市児童育成計画の原案の作成及び進捗状況の検証等について貴審議会の意見を求めます。		
加藤次長	それではここで、市長よりあいさつをさせていただきます。		

<p>市長</p>	<p>皆さんこんにちは。みよし市長の小野田賢治です。</p> <p>みよし市では、安心して子どもを産み育て、誰もが豊かな心を育むまちづくりを基本目標の第1番目として、安心して子育てができる環境や子どもたちの笑顔と元気な声が、家庭や学校、地域で響きわたるまちを目指し、子どもの健全育成に関する施策の充実に努めております。</p> <p>本市におきましても、子ども・子育て支援法に基づく新たな子ども・子育て支援制度の下で、平成30年度に実施したニーズ調査や生活状況調査などにより、しっかりと把握し、諸課題を解決するため、令和2年度から5年間の計画となります「児童育成計画」を策定してまいりますので、審議会委員の皆さまには、忌憚のない議論をお願い申し上げます。</p> <p>子どもを持つ親が、子育てに喜びを感じ、安心して子どもを育てる環境を整備することが、次代を担う子どもの健やかな成長につながってまいります。本市では今後も児童育成計画に基づいた施策を推進してまいりますので、委員の皆様におかれましても、市政につきましても、今後ともご協力くださいますようよろしくお願いいたします。</p>
<p>加藤次長</p>	<p>市長は他の公務がございますので、ここで退席となります。</p> <p>議事に入ります前に、今年度初めての会議ですので、委員の皆様及び職員の自己紹介をお願いします。</p> <p>資料1の名簿の順でお願いしたいと存じますので、小沢先生よりお願いします。</p>
<p>全員</p>	<p>(委員及び職員自己紹介)</p>
<p>加藤次長</p>	<p>それでは、審議事項に入ります。これより議事の進行は、みよし市児童育成計画審議会設置要綱第5条第1項の規定により、小沢会長にお願いいたします。</p>
<p>小沢会長</p>	<p>それでは、会長が議事進行を行うということなので、皆さまよりよろしくお願いいたします。まず、(1)みよし市児童育成計画 骨子案について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>木戸主幹</p>	<p>資料1をご覧ください。</p> <p>児童育成計画は、子ども・子育て支援法第61条に規定される市町村子ども・子育て支援事業計画として策定するもので、現行の計画が平成27年度から今年度までの5年を計画期間としていたため、来年度からの5年間に係る新たな計画を策定することになります。</p> <p>このため、昨年度、子ども・子育て支援事業に関する利用ニーズを把握するため、アンケート調査を実施しました。この結果に基づいて計画を策定してまいります。</p> <p>アンケート結果から見られる課題についてまとめたものを、資料3ページ以降に載せております。</p> <p>まず、就学前児童の保護者から、保護者の面倒を見られないときに、代わりに面倒をみてくれる人がいないとの回答が15%ありました。また、平日に教育・保育事業を利用しているのは、認可保育園44%、幼稚園43%とほぼ同数でした。今後の利用希望の割合でも、同じ傾向が見られますが、幼稚園の預かり保育は、現利用者6%に対して希望者31%と大幅</p>

	<p>に増加しており、子どもを預けて働く意向が今後強まる見通しであるとみられます。</p> <p>次に、平日以外の利用希望では、土曜日が23%、日曜祝日が21%、夏休みや冬休みの長期休業中が61%でした。子どもが病気になったときに仕事を休んだことのある保護者のうち、病児・病後児保育を希望したい人は42%でした。</p> <p>小学生の保護者からは、保護者の面倒を見られないときに、代わりに面倒をみてくれる人がいないとの回答が15%と、未就学と同数の回答でした。また、放課後児童クラブの平日以外の利用希望では、土曜日18%、日曜祝日が29%、長期休業中が95%となっています。</p> <p>こうした状況から見えてきた課題として、保護者が面倒を見られないときの支援、幼稚園の預かり保育のニーズの増加、長期休業中の支援、子どもが病気になったときの支援等が挙げられます。</p> <p>次に、昨年度のアンケート調査とともに実施した、子どもの生活状況調査では、子どもの貧困に関する生活実態を把握するための調査を行いました。この結果では、子どもに大学までの教育を受けさせたい親は、就学前保護者は81%、小学生保護者は80%、中学生保護者は74%ですが、経済的に難しいとの回答が、就学前保護者8%、小学生保護者9%、中学生保護者13%でした。</p> <p>また、現在の暮らし向きを苦しいと感じる親は20～25%あります。所得が低い世帯やひとり親世帯では、授業がわからないことがある児童の割合が高くなっており、所得の低い世帯や保護者の最終学歴が低い世帯で、歯磨きや入浴などの基本的な生活習慣が身につけていない傾向が見られます。</p> <p>こうしたことから、低所得、ひとり親、保護者の学歴が低い世帯で、子どもの学力、生活習慣に課題があることが分かります。</p> <p>これらの課題を踏まえて、次期計画の体系案を5ページにまとめました。大きな柱の一つ目として、安心して子どもを育てられる支援が整ったまちを掲げ、これを達成するため施策として、子ども・子育て支援事業の充実と提供体制の確保、子どもに関する専門的な知識や技術が必要な支援体制の充実、子育て支援情報の提供の充実、親の多様なニーズにこたえられる子育て支援の充実を行います。もう一つの柱として、子どもの元気な成長を支援するまちとして、質の高い教育・保育の実施、虐待やいじめなどの問題から子どもを守る取り組みの充実、低所得世帯の子どもに対する支援の充実、障がい児に対する早期支援の実施、地域社会全体で子どもを守る取り組みの充実などの各政策を実施します。</p> <p>以上説明とさせていただきます。</p>
小沢会長	ありがとうございました。何かご質問があれば発言してください。
谷澤委員	幼稚園、保育園、放課後児童クラブの土日の実施状況を教えてください。
木戸主幹	幼稚園は、通常の保育時間は月～金ですが、希望者は預かり保育として土曜日に通園している場合もあります。保育園は、園によって土曜日の半日又は1日を開所しています。日曜日は、天王保育園での休日保育を利用できます。一方、放課後児童クラブは、土日は閉所しています。
谷澤委員	では、土日に預けられない小学生は、どのようにしているのですか。

木戸主幹	土曜日にも開館している市内の児童館をご利用いただくか、ファミリー・サポート・センターをご案内しています。
谷澤委員	平日休みの勤務の家庭もあると思うので、考慮してほしいというのが私の意見です。
野々山委員	兄弟がいて、下の子は保育園に預けられるが、上の子が小学生だと預ける場所が無いというのでは、親も心配だと思います。
福島委員	親の育った環境で、そのお子さんも同じように育てられるということをよく聞きます。子どもの生活習慣なども、親の側にも何らかの支援が必要だと感じます。
馬淵委員	日々の生活にいっぱいいっぱいになっている家庭では、子どものことに十分な時間を持ってない場合もあるのではないかと思います。
野々山委員	ファミリー・サポートは、みよし市では700円ですが、刈谷市では650円です。長時間利用すると、負担も大きくなりますので、特に低所得者に対する支援策の検討が必要だと思います。
谷澤委員	ファミリー・サポートの援助会員に対しては、十分な研修が実施されているのですか。
木戸主幹	入会のときに、制度のしくみ、お子さんが病気や怪我のときの対応、救急救命に関する90分の研修を行っています。 その他では、年1回フォローアップのための研修を実施しています。
深谷委員	私も、以前ファミリー・サポートに登録していましたが、実際に使ったことはなく、一時保育を利用したことがあります。いざという時に利用できるサービスが充実しているのはよいことだと思います。
小沢会長	他にご意見はありますか。 続きまして、(2) アンケート調査結果の概要について事務局より説明をお願いします。
木戸主幹	資料2をご覧ください。 先ほどの説明と重複する箇所は省いて説明させていただきます。 小学生の放課後の過ごし方について、未就学の保護者の回答のうち放課後児童クラブの利用希望者は42%で、実際の利用者12%と比較すると多いことから、今後利用を希望する世帯割合が高まる見込みとなっています。 母親の育児休業の取得状況は38%、取得せずに退職したのは50%です。育児休業を取得した期間は、1歳～1歳5月が49%、1歳6月～1歳11月が22%、6月～11月が10%で、2歳以上の回答は実際は17%でしたが、希望は48%ありました。 幼児教育・保育の無償化により、子どもを増やしたい人は44%、利用希望するサービスは、幼稚園の預かり保育が無償化前6%から無償化後18%と高くなっています。 次に、子どもの生活状況調査では、母親の就労状況について、フルタイ

	<p>ムの就労が就学前34%、小学生21%、中学生24%に対し、無業は就学前47%、小学生26%、中学生16%でした。修学前のフルタイムの就労が高くなっており、出産等で退職した人も、子どもの成長とともにパート等で就労する割合が高くなっています。</p> <p>次に、資料12ページからは、クロス集計により、所得別、ひとり親ふたり親の別、保護者の学歴別に回答を分析した結果を掲載しています。</p> <p>まず、学校の授業が分かる割合は、低所得、ひとり親、低学歴の世帯ほどかわる割合が低くなっています。また、習い事をしている割合は、ひとり親の家庭で特に低くなっています。基本的な生活習慣も、低所得、ひとり親、低学歴の世帯で毎日していない割合が多く、学校のある日の朝食を親と一緒に食べない児童の割合も同じ傾向がみられます。</p> <p>以上、説明とさせていただきます。</p>
小沢会長	<p>ありがとうございました。何かご意見があれば発言してください。</p> <p>ご意見がないようでしたら、(3) 児童育成計画策定スケジュールについて事務局から説明をお願いします。</p>
木戸主幹	<p>資料3をご覧ください。次回の審議会は、10月を予定しており、各事業の利用見込量や提供体制の構築なども含めて、計画案をお示しして審議して頂く予定です。その後、12月にパブリックコメントを実施し、来年2月ごろに最終案を審議していただくため、第3回会議の開催を予定しています。以上、説明とさせていただきます。</p>
小沢会長	<p>何かご意見があれば発言してください。</p> <p>特に質問等なければ、会議の進行を事務局にお返しします。</p>
加藤次長	<p>議事の取り回し、ありがとうございました。最後に、子育て健康部長よりご挨拶をさせていただきます。</p>
林部長	<p>本日は長時間にわたりまして、慎重に審議いただき誠にありがとうございました。いただいた貴重なご意見につきましては、次回お示しする計画案に盛り込んでまいりたいと存じます。そして、最終的には、第3回目の審議会において計画案を策定してまいりますので、引き続き委員の皆さんのご理解とご協力をいただきながらお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。</p>
加藤次長	<p>審査会の終了にあたり、礼の交換をします。</p> <p>恐れ入りますが、皆様ご起立をお願いします。</p> <p>「互いに礼」ありがとうございました。</p> <p>(礼の交換)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>